



前田武志国土交通大臣、竜ヶ水地区・新燃岳・桜島を視察

前田武志国土交通大臣は、南哲行砂防部長等の随行的のもと、平成24年2月18日に、鹿児島、宮崎両県を訪れ、新燃岳や桜島を上空から視察したほか、平成5年の8・6水害で大きな被害を受けた鹿児島市吉野町の竜ヶ水地区を視察しました。竜ヶ水地区では、当時、土砂災害が多発し、鉄道の車両や国道が土砂で埋まり、4名の方が犠牲になる等、多数の被害がでました。

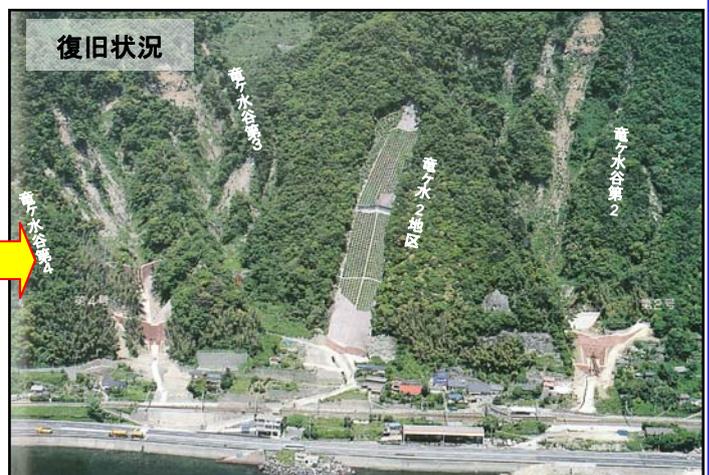
前田国土交通大臣は、竜ヶ水駅内のプラットフォームの竜ヶ水災害復旧記念碑前において、平成5年災害の被害状況、人命救助活動、復旧復興、現在の整備状況、警戒避難体制について説明を受けられました。前田国土交通大臣は、雨量計の設置状況や警戒避難基準についての質問をされ、「山崩れはいつ起こるかわからない。警戒避難体制を確立することが大事だ」と述べ、19日の視察後の報道関係の取材に対しては、「鹿児島は火山、豪雨、土砂崩れなどの災害が多く、ハードとソフトを組み合わせた「多重防御」での地域づくりが望ましい」と指摘し、ハード・ソフト両面からの土石流対策が重要だという考えを示しました。



竜ヶ水駅プラットフォーム内の災害復旧記念碑を視察される前田武志国土交通大臣



鹿児島地域振興局宇都博美建設部長から説明を受ける前田武志国土交通大臣



平成5年鹿児島豪雨災害時の竜ヶ水地区の被害状況と復旧状況

平成23年度土砂災害防止に関する絵画・作文の受賞作品・受賞者

国土交通省と鹿児島県では、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、その一環として次代を担う小中学生を対象に「土砂災害防止に関する絵画・作文」を募集しています。平成23年度は、県下46の小中学校から合計175点の作品の応募がありました。奄美市立朝日小学校 義岡詩苑さんが作文の部で国土交通省国土交通大臣賞、霧島市立向花小学校の上脇田瑠さんと指宿市立南指宿中学校の杖谷萌香さんが絵画の部で国土交通省事務次官賞を受賞しました。



授賞式の様子(大島支庁にて)

国土交通省表彰 国土交通大臣賞
鹿児島県知事表彰 最優秀賞

小学生作文部門



「奄美豪雨災害から学んだこと」

奄美市立朝日小学校 6年 義岡 詩苑さん

「台風は行っちゃったのに、雨が降るねえ。」

いつもと変わらないような雨。これが、あの「豪雨」の始まりだった。

午前中だというのに外は暗くなり、雨の降り方が激しくなってきた。友達が

「大丈夫かい。もう、これ帰らんばいかん。」と言っていた。外を見ると、中庭から校庭へ水がどんどん流れていた。この日はいつも通り授業をすませ、「雨が強いから気をつけて帰るんだぞ。」という先生の話聞いて下校した。

家に帰り着き、早速テレビをつけると、普通に番組をしている。時折、「奄美に大雨、洪水警報」とは出ていた。本当の豪雨の姿を知ったのは、この日の夜だった。

夜、げん関のベルが鳴った。

「こんな日にだれかい。」と、父がいった。げん関を開けてみると、

「何があったんかい。」と思うほどびしょぬれでおじが立っていた。おじはあわてた様子で、

「住用は通行止めど。どろ水で屋根までつかってるし、山がくずれとったど。」と言った。おじは、奄美市内に買い物に来ていて瀬戸内に帰ろうとしたら、住用の手前で止められ、引き返してきたそう。わたしは「まさか。」と思ったけれど、住用はよく雨がふるのだ。トンネルをぬけて住用に入ると雨ということがよくある。山に囲まれていて雨がふりやすいと聞いていた。

でも、おじの様子から普通でないと感じたので、何か情報を入れようと、奄美大島のラジオ「あまみエフエムディ!ウェイブ」をつけた。ラジオからは通行止めの情報や土砂くずれの情報が次々と入ってきた。すごい被害が出ていると思った。この放送は豪雨の時、二十四時間、一日も休まず放送し続けていた。テレビのニュースでは伝えられない細かい情報までくわしく放送してくれた。地元のラジオ局だからできたことだと思う。この日、おじは家に帰れなかったため、わたしの家に泊しなければならなくなった。

次の日、学校に行ってみると、校庭は水と流れてきた土砂でうまっていた。中庭の池にいたはずのこいが校庭で泳いでいる。とても歩けそうにない。校庭の様子をだれもがぼうぜんとして見ている。話すことさえしていなかった。先生方の、

「こっちを通過して、教室に行きなさい。」という声にはっとして教室に向かった。教室にはみんなの元気な顔がそろっていた。みんな家の様子を話していたが、「こっちがこのようなことになっているのに住用の人たちは大丈夫かい。」と友達がいって。昨日のおじの様子から、住用はどうなっているのだろうとわたしも心配になった。

実際に住用の様子を見たのは、豪雨災害から一ヶ月ほど後だった。トンネルの明かりは消え、トンネルの中にまで土砂が入っていた。あれから十ヶ月。今でも土砂くずれで片側通行の所がたくさんある。しかし、この豪雨災害を通して学んだことがある。

一つ目は、地域で情報を共有し協力するということだ。「あまみエフエム」のラジオ局のおかげで家族や親せきの無事を確認できたり、道路の様子を確認することができた。二十四時間、情報を入れてくれたおかげで、安心できた。おじも次の日、情報を聞いて無事に瀬戸内の家まで帰ることができた。

二つ目は、身近でもこんな災害が起こるということ。だから、日ごろからどう動けばいいかを考えておくことが大切だということも学んだ。

この美しい島、奄美大島の復興には少し時間がかかると思う。でも、災害に負けないような心を奄美の人は持っている。これからも協力し合って生活していきたいと思う。



平成22年10月20日発生、土石流災害(奄美市)

鹿児島県知事表彰 最優秀賞

中学生作文部門

「奄美豪雨がもたらした土砂災害」

奄美市立朝日中学校 2年 里 圭太さん



去年の十月、僕達の住んでいるこの奄美大島は、記録的豪雨に見舞われました。ものすごい量の雨でした。住用村では、奄美体験交流館の近くの川が氾濫して、洪水が起き、浸水したところもありました。その時の写真が、奄美体験交流館にありました。洪水になっているときの写真と、普段の写真を比べると、洪水になっているときの雨の量がものすごく大量なことが分かりました。しかも、この大量の雨は、洪水の他に土砂崩れも引き起こしました。

奄美大島の各地で、土砂崩れが起きました。その中には、死者を出す土砂崩れも起きました。土砂崩れは、傾斜が急なところで起きやすいです。僕も土砂崩れの跡は、テレビで見たことがあるだけで、実際には見たことがありませんでした。

しかし、この奄美豪雨で実際に土砂崩れが起きました。僕は、この土砂崩れの跡を見れば見るほど、すごく恐くなってきます。

崩れ落ちた土砂の周りには、鉄の仕切りがあったり、大量の土のうが置いてあったり、ブルーシートがかぶせられていたりしました。緑でいっぱいのに、一部分赤土が見える山も少なくありません。僕の住んでいる大熊でも、神社のある小さな山で土砂崩れが起きて、山の一部分が削り取られています。

このような土砂崩れで、笠利や龍郷町に住んでいる生徒や先生は、行く道の途中で土砂崩れの土砂のせいで、通行止めになっていて、学校に来ることすらできませんでした。僕達の朝日校区内に住んでいる生徒達は、学校に来ることはできても、家の後ろの山が崩れてきそうな生徒や、学校に来る間に、激しい雨に打たれ、傘をさしても制服や学生カバン、くつ下やくつなどがぬれてしまう状況でした。校門前では、とても深く大きな水たまりができていました。だから、くつ下とくつを脱ぎ、ズボンのすそを上げて登下校していた生徒もいました。

他にもたくさんの土砂崩れがありました。朝日校区内でも土砂崩れが起きて、道路の半分が崩れ落ちたところなどがあります。龍郷では、お墓のすぐ後ろの山が崩れ落ち、遺骨が埋まってしまった遺族の方たちもいます。

僕は、この情報を聞いたとき、すごく悲しい気持ちになりました。亡くなったということだけでもつらいのに、遺骨まで土砂に埋まってしまったということは、ものすごくつらいことだと思います。しかもその土砂はお墓をつぶして、道路の向こう側の家まで被害を及ぼしました。

他にも土砂が道路をふさいでしまったので、土砂の横に臨時の道路を作ったところもあります。このようなところで役に立っているのは、臨時の信号機です。片道土砂で埋まっていたり、道路が崩れ落ちていたり、工事中だったりして片道しか道路が使えないところに、この臨時の信号機が取り付けられています。対向車とぶつからず、スムーズに車の行き来ができるようになるために役立っています。

また、このような土砂崩れなどを防ぐために役立っているのが砂防ダムや砂防林です。砂防ダムは、鳩浜の方でも建設されています。砂防ダムや砂防林は、海岸や河川、山地などでの土砂崩れが起きたときに、被害を最小限におさえるためのものです。実際に、砂防ダムや砂防林は各地で建設され、活躍しています。

今、奄美大島は復興するために、たくさんの場所で工事が行われています。みんな復興目指してがんばっているのだから、僕は僕にできることをこれからも積極的にいき、奄美大島が一日でも早く、もともとのきれいな海や山などの自然でいっぱいの奄美大島に戻ってほしいです。



平成22年10月20日発生、土石流災害(奄美市)

鹿児島県知事表彰 優秀賞

中学生作文部門

「土砂災害から考えること」

鹿児島市立東谷山中学校 2年 西 玲子さん



7月下旬、新潟県、福島県では局地的に一時間当たり80ミリを超える猛烈な雨が断続的に続いた。平成16年7月の「新潟・福島豪雨」を超える記録的な大雨となった。この雨の影響で土砂災害がおきた。

また和歌山県では7月に発生した台風6号の影響で大規模な土砂災害がおきた。和歌山県は、東北地方太平洋沖地震の影響で震度5強を観測し、地盤がゆるんでいたという。

土砂災害とは土砂の移動によっておきる自然災害のことを言う。主に土砂の移動は、大雨や地震が引き金となっておきる。土砂災害は、がけ崩れ、地すべり、土石流に分類される。

近年世界でおきた土砂災害として、次のようなことが挙げられる。

フィリピンのレイテ島では2006年2月、大規模な土砂災害が発生した。地すべりとは地面にひび割れができ、建物や道路、田畑などがズルズルと動き出す現象だ。

原因は、2週間にわたり豪雨が降り続いたこと、地震がおきたことだとされている。この地すべりによって村全体が土砂にうまり、その高さが10mにもおよんだ。その後も小規模な地すべりが続いたことから犠牲者は1,100名にもなった。

レイテ島でおきた地すべりは、川の上流で行われた森林伐採が原因でおきたと考えられている。森林には、雨水をたくわえ、川の水量を調整する役割がある。そのため、森林がなくなってしまうと、雨水が一気に川に流れこみ、洪水や土砂災害が発生しやすくなる。また、台湾では深層崩壊がおきている。深層崩壊とは、規模の大きな土砂くずれのことをいう。がけくずれは、降り続いた大雨が地中にしみこむことで土の抵抗力が弱まり、斜面がくずれ落ちることでおきるが、山はだや地面の深くないところでおきる。地すべりは、がけくずれと比べると、山はだや地面の深いところでおきるが、一般的にその動きはゆるやかだ。ところが深層崩壊は、山はだの深いところから土砂くずれの規模が大きく、速度も速いため、被害は大きく、広範囲におよぶ。

2009年8月、台湾をおそった台風は、南部の小さな村に、3日間で2,000ミリという大雨をもたらした。浸水や土石流などによる被害をまめがれるため、村人は高台に避難したが、そこに深層崩壊がおき、村もろとも土砂にうもれ、犠牲者は500名にもなった。

この災害をきっかけに、台湾と同じく、台風の影響を受けやすく、地形が山がちで複雑な日本では、深層崩壊への警戒が強められるようになった。

このような自然災害は、世界各地で毎年おきている。地域別に見た1978年から2008年までの世界災害で、アジアの発生件数は全体の37.1%で3,432件おきている。またその犠牲者は153万7000人と全体の61.7%を占め、被害者数は50億6200万人で全体の8割以上がアジアの人々であることが分かっている。このようにアジアでは、発生件数のわりに犠牲者や被災数が多くなっている。これは、アジアの多くの国が発展途上の国だからだ。

自然災害は、人の力では防ぐことができない。しかし、施設の整備などで被害を少なくすることは可能だ。また、自然災害がおきる危険性をあらかじめ知っておけば、避難などの行動をとることができ、尊い生命を失わずにすむ場合もある。

アジアをはじめとした世界の開発途上国の多くは、こうした取り組みが遅れている。そのため、自然災害が発展のさまたげになっている国もある。

わたしは、自然災害をくい止めることはできないが、世界の国々が協力し、自然災害に対する取り組みが遅れている国を支援し、犠牲者、被災者を減らしていくことが大切ではないかと考える。

そうしたことをすることで、開発途上の国は発展し、もっと平和で豊かな世界をつくることができるのではないかと。



平成21年8月7日発生、深層崩壊による土砂災害(台湾小林村)

鹿児島県知事表彰 優秀賞

小学生作文部門

「土砂災害」

錦江町立大根占小学校 5年 吉井 龍生さん



平成22年7月4日発生、土石流災害(南大隅町)

ぼくは、一年前に土砂くずれにいました。その土砂くずれは、大雨が続き起きたものです。土砂くずれが起きた日、僕は目をうたがいました。実は、四年前にも台風のえいきょうで土砂くずれを経験していましたが、それ以上に大きくずれていたからです。

その土砂くずれは、7月4日に起きたものです。ぼくは、すぐに家を出る準備をしました。急いで準備を終え、外へ出ました。家族が家から出てくるまで、またくずれてこないか見張っていました。家族全員が準備を終えると同時に家から移動しました。家族の一人である犬は、友達の家で預かってもらうようお願いしました。妹は犬を一人にさせたくないようで、友達の家と一緒にに行くことになりました。父は、けいさつ官なので地域に人たちをひなんさせるため駐在所に残りました。残ったぼくと母は、ネッピ一館という宿泊施設に一日だけ泊まりました。

ぼくが、一年生のときにも土砂くずれがおきました。部屋でテレビを見ていると「ドンドン。」とドアをたたく音がしました。

「土砂がくずれたぞ、逃げろ。」

と近所の人があわてて知らせにきてくれました。外に出ると家の前の道路に土砂や木が大量の水とともに流れて大人のひざ上の高さの川みたいになっていました。少しだけ雨がふっていましたが、風が強く、小さな玉が当たるように雨粒がこうげきしてきました。あまりにいたいで、雨がっぱを着て学校の体育館を目指して歩きました。ぼくは父に、妹は母にだっこされて道路を渡りました。普段なら、学校まで5分ほどで着くはずが、雨風が強いので、予想以上に時間がかかりました。やっとの思いで体育館に着くと体育館は近所の人もひなんしていました。体育館に入るとそのまま夜まで静かに過ごしました。

夜になると台風が通り過ぎたようあたりは静けさを取りもどしました。

「もう安心だね。家に帰ろうか。」

と母の言葉でぼくもホッとすることができました。家に帰る途中、川のように流れていた土砂はまだ残っていて、家の入り口のギリギリの所でとまっていました。ぼくは、これはどのように取りのぞくのか知りませんでした。

次の日、いつも通り朝をむかえました。

「何かあるの。」

とぼくが母に聞くと

「スコップで土砂を取りのぞくんだよ。」

と言ったので、ぼくはびっくりしました。そして、ぼくも手ぶくろとスコップを持って土砂を取りのぞきました。でもスコップでとりのぞくだけでも水を含んだ土は重く、少ししか出きませんでした。途中で大きなショベルカーがきたことで、土砂を取りのぞく作業のペースが上がりました。

ぼくは、二つの土砂災害を経験しました。この二つの土砂災害には、自分なりにちがいがあっていました。

一つ目のちがいは、「ひなんの期間」です。四年前のものは一日だけでしたが、一年前のものは一ヶ月以上のひなん生活を経験しました。つらかったことを覚えています。

二つ目は、「土砂の量」です。四年前のものは家の周りに土砂が残る感じで、数日で元の地域にもどりました。一年前のものは、道路を作り変えないといけないほどの量がありました。土砂だけでなく大きな岩もきれいな海岸にまでくずれてきていました。

ぼくは、二つの土砂災害を経験して、あらためて自然のこわさを感じました。ぼくは、きれいな海や山に囲まれたこの地域が大好きです。この自然を守り、二度とこのようなことが起きてほしくないと願っています。

小学生作文部門

「あまみのさいがいのこと」

住用小学校 1ねん いわきり もえさん



平成22年10月20日発生、洪水氾濫による災害(奄美市)

きょねんの十がつはつか、わたしのすんでいる住用町に大あめがふりました。わたしは、そのときほいくしよのねんちようぐみでした。そのひは、あさから、ずっとあめがふっていました。ひるのこのはんのあと、あそんでいると、いり口のかいだんの二だんめに、どしゃがながれてきていました。わたしは、びっくりして、せんせいにしえにははっていききました。

「あげえ、ほんとじゃや。」

と、せんせいもあわてていました。

そのあと、しょうぼうの人がきて、ひなんのじゅんぴをしておこうにと、いいました。まっているあいだ、こわくて、こわくて、なみだがでました。ひなんするところは、どこだろう、いもうとは、どうしているだろうとしんばいになりました。

しばらくすると、やくばではたらくおとうさんがたすけにきました。そのとき、どしゃは、かいだんの四だんめまでできていました。おとうさんたちは、わたしたちをひとりずつだっこして、はこんでくれました。

それから、住用小がっこうのたいいくかんにひなんしました。あめは、どんどんふっていました。しばらくすると、ていでんになりました。ろうそくをつけて、ごはんをたべました。

ねむるときは、まどにかかっていたかあてんをきてねました。いもうとは、さびしくないかなあ、おかあさん、おとうさんは、だいじょうぶかなとおもいながら、かあてんのなかにもぐってなきました。

つぎのひ、わたしは、せんせいのくるまでいもうとのいるところへむかいました。あちこちさがして、やっと、いもうとをみつけることができました。

「ひな、げんきだったあ。」

と、はっていききました。それから、おかあさんもはってきました。

「もえ、ひな、よかった。」

といって、なっていました。さいごに、おとうさんが、びしょびしょになってやってきました。おとうさんは、よるのあいだ、町の人たちを、たすけていたのだそうです。

やっと、かぞくがそろってうれしかったです。みんながぶじで、ほんとうに、ほんとうによかったです。

鹿児島県知事表彰 優秀賞

中学生作文部門

「八・六水害」

指宿市立南指宿中学校 2年 岡元 美怜さん



平成5年8月6日発生、がけ崩れ災害(鹿児島市)

私の祖父は吉野町の花倉に住んでいます。祖父宅の裏山から錦江湾を見下すと雄大な桜島がみえ、絶好のロケーションです。

しかし、この裏山が18年前土砂災害で死者15名が出ました。

私は土砂災害と聞くと、「八・六水害」が頭にうかびます。インターネットでも、「八・六水害」について調べてみました。

1993年8月6日は鹿児島市を中心として一時間当たり最大99.5ミリメートルの雨が数時間降り続きました。鹿児島市の雨量は一日259ミリメートルまで達し、鹿児島市内を中心として死者48名、行方不明者1名を出しました。

鹿児島市中心部を流れる甲突川が増水し、江戸時代に架けられた甲突川五石橋のうち新上橋と武之橋が流失しました。

鹿児島市北部の奄ヶ水地区では約4キロメートル区間に22カ所の土石流が発生し、この地区を通過する国道十号線約千二百台の車が動けなくなり、ほぼ陸の孤島状態になりました。孤立した人の中には土石流に巻き込まれ、鹿児島湾に投げ出される人もいたそうです。それから奄ヶ水で立ち往生した旅客列車が土石流に巻き込まれて大破しましたが、ほとんどの乗客は乗務員の指示で避難した後だったそうです。

私が初めてこの水害を知ったのは、祖父に聞いたのです。私はいつも祖父の家に行くとい建物があり、その建物は窓が割れていたり、土で汚れていたりしています。そこには誰もいません。なぜこの建物があるのか不思議に思い、祖父に聞きました。その白い建物は、前は花倉病院という病院だったそうです。でも八・六水害という水害がおきて、病院の中にいたかん者さんが、何人も亡くなったそうです。それで、今も白い建物は残っています。そんな災害があったとは話をきくまで知りませんでした。

八・六水害がおきたときの、様子を母に聞いてみました。4月から毎日のように雨が降っていました。梅雨明けが発表されたのに、8月6日まで雨の日が多かったそうです。その日は朝から雨が降り、夕方にはひどく冠水して、車が大渋滞していました。車の中で、6時くらいにラジオで「花倉で土砂崩れが発生」というのを聞いて、とても不安になったそうです。自宅は土砂で埋まったかと思ったそうです。母、私の祖母が一人で家にいたので安否が気になったそうです。

母の家族の安否が分かったのは、次の日でした。

テレビでは全国で鹿児島の水害の、様子が放送されました。祖母の話によると、花倉病院の近くの裏山から、「ゴオー」と大きな音を立てて土石流がものすごいスピードで迫ってきたので、安全そうな場所に小走り逃げたそうです。その夜は、花倉地区の海岸で救助の船を待ち続け、やっと漁船で鹿児島市内に向かったそうです。

翌日、花倉周辺は、がけがずれで国道まで土砂が流れ、バスはガードレールを破り、もう少しで海に落ちる映像が写り、母がびびりしたそうです。幸い、家は土砂で半分埋まり、母の軽自動車も土砂でつぶれる被害だけで済みました。しかし家の裏山はくずれしているし、家は土砂で埋まっているので、花倉での生活はできませんでした。

八・六水害の後、約2年かけて、大規模な砂防工事が行われました。今は立派な、ようへきが完成しています。八・六水害のとき、山から土砂が流れてきたと考えられる所には、高いフェンスがはってあります。今は、何もなかったかのようにきれいになっています。でも土砂が流れていた所には、土砂災害の後がまだ残っています。

八・六水害というのは、鹿児島市内にたくさんの影響をもたらしたということを初めて知りました。

私は、よく雨が降ってほしいと思いますが、雨が長く続いてしまつて土砂くずれに巻きこまれてしまうのは、怖いのです。

八・六水害にあった町は、今でも土砂くずれなどに備えて避難訓練をしています。

私の祖父、祖母もその地域に住んでいるので、ほぼ毎年参加しています。土砂くずれはいつおこるのか分からないので十分に気をつけたい。

8月6日は広島に原子爆弾が投下された日でもある、鹿児島に住んでいる人なら、八・六水害という災害を知って、忘れないでほしいです。

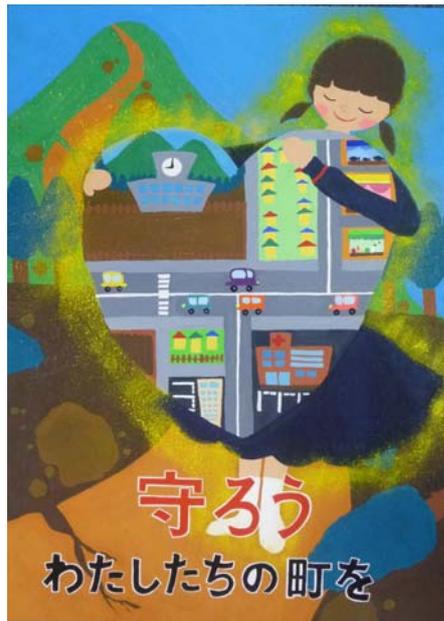
国土交通省表彰 事務次官賞 鹿児島県知事表彰 最優秀賞

小学生絵画部門

中学生絵画部門



霧島市立
向花小学校
6年
上脇田 瑤さん



指宿市立
南指宿中学校
2年
杖谷 萌香さん

小学生絵画部門

鹿児島県知事表彰 優秀賞

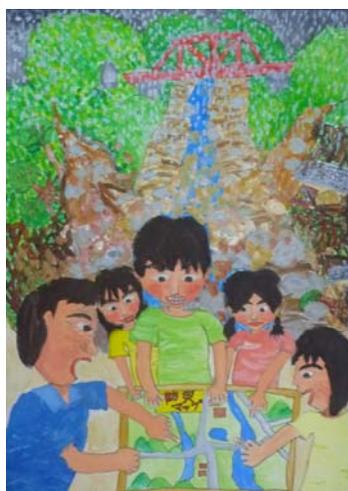
中学生絵画部門



神村学園
初等部 2年
西原 妃夏さん



龍郷町立
龍南中学校 1年
重野 朝香さん



出水市立
江内小学校 5年
中尾 朱里さん



指宿市立
南指宿中学校
1年
山下 雄大さん

平成23年度「命と生活(くらし)を守る新国土づくり研究会」が開催されました

「命と生活を守る新国土づくり研究会」は、洪水・土砂災害から人命・財産を守り、安全で安心して暮らせる県土づくりを進めるための研究、相互の交流や国への各種施策の要望を行うことなどを目的として、平成6年9月に10府県の知事により発足し、毎年開催されています。

今年度は、大規模な水害・土砂災害のほか、東日本大震災の教訓を踏まえ、研究会テーマを「これからの水害・土砂災害対策について」、副題を「～頻繁する大規模災害に備えるために～」と設定し、2月6日に全国町村会館にて開催されました。

関係府県の知事・副知事と国土交通省からも奥田建国土交通副大臣をはじめ、事務次官、技監、水管理・国土保全局長、砂防部長など多くの方々が出席され、活発な意見交換が行われました。

鹿児島県からも山田裕章副知事が出席し、鹿児島県における近年の豪雨災害、治水行政の取組、大規模災害への対応について意見発表し、国に対して引き続き必要な予算の確保と支援を要望しました。



あいさつを述べる奥田建国土交通副大臣



意見発表する山田裕章副知事

平成22年災害被災地の復興

境谷地区

平成22年6月11日から7月19日にかけて全国各地で大雨となり、岐阜県、広島県、佐賀県や鹿児島県などを中心に大きな災害が発生しました。これを受けて、6月11日から7月19日までの間の豪雨による災害について、国は「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき、8月25日に「激甚災害」に政令で指定しました。これにより、その期間内に発生したがけ崩れ災害については、市町村が主体となり、事業費を国、県、市町村で負担する「災害関連地域防災がけ崩れ対策事業」の採択が可能となりました。

鹿児島県では、平成22年6月21日午前6時頃、薩摩川内市樋脇町塔之原の境谷地区でがけ崩れが発生しました。崩壊斜面上部には人家2戸があり、今後の降雨により被害拡大の恐れがあるため、平成22年12月22日に災害関連地域防災がけ崩れ対策事業が採択され、その後、詳細設計、用地取得、対策工事発注を行い被災から16ヶ月後に全て完成しました。



■地元からの感謝の声■

境谷地区の住民からは、急傾斜地崩壊危険箇所は知っていたが、長年何事もなく災害に対する危機感があまりなかった。いつもと違う雨が降っていると感じていたが、夜中で外の状況は雨音でよく分からず、朝起きてがけ崩れに気が付き恐怖を感じた。崩れが大きくてどうしようもなく、とりあえずブルーシートをしたが、市や県の担当から事業採択の可能性があると聞き少し安心した。この度対策工が完成し日々の生活を安心して送ることができ、感謝していますとの声がありました。

大金久2地区

平成22年10月18日から20日にかけて奄美地方付近に前線が停滞し、奄美市付近、大和村付近などで記録的な大雨になりました。

今回の豪雨災害で特に災害の大きかった奄美市(旧住用町)、龍郷町、大和村、瀬戸内町について、国は「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき、11月25日に今回の災害を「激甚災害」として政令で指定しました。

これにより、10月18日から10月25日に発生した4市町村でのがけ崩れ災害については、市町村が事業主体となり、事業費を国、県、市町村で負担する「災害関連地域防災がけ崩れ対策事業」の採択が可能となりました。

鹿児島県では、平成22年10月20日午後2時頃、大島郡大和村大金久の大金久2地区で斜面崩壊によるがけ崩れが発生し、家屋1戸が一部損壊の被害が発生しました。崩壊斜面下部には人家が5戸あり、今後の降雨により被害拡大の恐れがあるため、平成23年2月22日に災害関連地域防災がけ崩れ対策事業が採択され、その後、詳細設計、用地取得、対策工事発注を行い被災から14ヶ月後に全て完成しました。



『災害関連地域防災がけ崩れ対策事業』とは、「災害対策基本法」による市町村地域防災計画に危険箇所として搭載され、又は搭載されることが確実であるがけ地のうち、その年の1月1日から12月31日までに発生した激甚災害に伴い崩壊等が発生し、これを放置すると人家2戸以上に倒壊等著しい被害を及ぼすと認められる箇所において、市町村が実施する直接人命保護を目的とするがけ崩れ防止工事です。なお、1箇所の事業費が600万円以上であることが必要です。

『土砂災害防止の集い2012』開催のお知らせ

近年発生した土砂災害を振り返り、その実態・対応状況・今後の取り組み等についての基調講演や土砂災害体験等による避難対策等の事例発表などを行います。

これからの防災を考える貴重な機会です。参加費は無料です。是非ご参加ください。

CPD・CPDS登録講習

■日 時 ■ 平成24年5月8日(火) 13:00～16:00
■会 場 ■ 市町村自治会館 4階ホール(鹿児島市鴨池新町7-4(県庁前))

●プログラム●

★基調講演 その1 (13:10～13:55)

「鹿児島県の自然災害の特徴と防災」

横山 博文 気象庁 鹿児島地方気象台長

★基調講演 その2 (13:55～14:40)

「近年の土砂災害について」

地頭菌 隆 鹿児島大学農学部 准教授

「2011年土砂災害発生状況
及び土砂災害対策の現状」 (14:50～15:05)

鹿児島県土木部砂防課長

「災害を振り返って
～わがまちの防災対策～」 (15:05～15:50)

朝山 毅 奄美市長

尾脇 雅弥 垂水市長

「鹿児島県の自然災害の特徴と防災」

横山 博文 気象庁 鹿児島地方気象台長

～鹿児島県で発生する様々な自然災害(大雨・台風・地震・火山)の事例と特徴について解説するとともに、気象庁の防災気象情報等の改善に向けた取り組みについて講演を行っていただきます。～



「近年の土砂災害について」

地頭菌 隆 鹿児島大学農学部准教授

～近年、豪雨や地震による大規模災害が多発している。2008年四川大地震、2009年台湾小林村、2010年奄美大島、2011年東日本大震災や紀伊半島など、豪雨や地震で発生した土砂災害の実態と対策について講演を行っていただきます。～



【編集後記】

平成23年度最終号の発行となりました。また、私事ではありますが、今回をもって編集長を降板することとなりました。名ばかりの編集長ではありましたが、毎号、紙面作りに取り組んでいる砂防課若手職員(?)の姿を見ては、自分も奮起しなければと思いつつ、ただ2年という時の流れに流されていきました。ただ、この2年間には、砂防課はじめ災害復旧や火山対策に従事している職員の皆様にとっては、劇的な出来事が凝縮されていたのではないのでしょうか。根占山本地区の深層崩壊、2年連続の奄美豪雨災害等で培った経験は、きっと、いつか何かの役に立つことと思います。

最後に、読者の皆様の今後ますますの発展を祈念して最後の後記とします。

(編集長 技術補佐 O. K)

ご意見・ご感想お寄せ下さい

TEL:099-286-3618 FAX:099-286-5627

E-MAIL:sabou@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島県ホームページ:<http://www.pref.kagoshima.jp>

土砂災害警報システムホームページ:<http://www.doboku-bousai.pref.kagoshima.jp>

“みんなで防ごう土砂災害”